

指定大学が加える科目

大学名：大阪教育大学

| 学部/大学院 | 科目名 | 対象学年 | 単位数 | 必修 | 選択 | 選択の場合、履修方法 ※教員免許取得に係る履修方法 | 免許種 | 重点テーマ | 開設年度 | 実施状況 | 科目概要 |
|--------|------------------|------|-----|----|----|------------------------------|---------|-------|-------|--------------------------|--|
| 学部 | ダイバーシティと教育 | 1前 | 1 | 1 | | | 一種（小中高） | ④⑥⑦ | 令和6年度 | 令和5年4月から試行 令和6年度前期開講済 | 現代社会におけるダイバーシティ（多様性尊重）の基本的理念を概説する。多様性を認めあう共生社会の構成員としての教師の姿を想定しながら、受講者ひとりひとりの理解と体験を促す。また、ダイバーシティ教育がめざす、子どもの多様性および、社会的包摂（社会的共生）を重視する学校教育のあり方やその価値について、受講生とともに考察する。 |
| 学部 | 現代社会と子どもの権利 | 1前 | 1 | 1 | | | 一種（小中高） | ⑥⑦ | 令和6年度 | 令和5年6月から試行 令和6年度前期開講済 | 現代社会における子どもの権利について学ぶ。具体的には、子どもの権利の基本的概念は何か、また、子どもの権利にはどのようなものがあり、子どもの権利がどのように守られてきたのかを学ぶとともに、現代社会における子どもの権利がどのように捉えられてきたのかをふまえて概観を理解する。また、現代の学校における子どもたちの諸権利を理解する。さらには、子どもの権利(特に子どもの身体と心の安全を保障)を守る大人として、さらに権利の行使主体となる子どもの成長を促す大人として、子どもの心身を脅かす課題は何で、どのような方策があるのかについて考える。 |
| 学部 | 多様な子どもとインクルーシブ教育 | 1前・後 | 1 | 1 | | | 一種（小中高） | ⑥⑦ | 令和6年度 | 令和5年6月から試行 令和6年度前期開講済 | インクルーシブ教育の理念とインクルーシブ教育に関する制度的事項の基礎を理解する。多様な子どもたちが在籍する通常の学級におけるインクルーシブ教育の取り組みを理解する。 |
| 学部 | 外国人の子どもの理解と支援 | 1後 | 1 | 1 | | | 一種（小中高） | ⑥⑦ | 令和6年度 | 令和5年4月から試行 令和6年度後期開講済 | 国籍や日本語力の程度を問わず、外国人児童生徒等やその保護者を取り巻く教育課題を取り上げ、指導や支援の政策動向や事例、指導関係者の役割や専門性、学校の役割を概説する。 |
| 学部 | 教職のための省察入門 | 1前 | 1 | 1 | | | 一種（小中高） | ② | 令和6年度 | 令和6年度前期開講済 | 教師へと立場を転換し、教職に向かって自分らしく学び始めるためにはどうしたらいいのかという問いのもと、学校現場の実際の体験や自身の被教育経験をふりかえって相対化しつつ、学校改革の展望を得る。 |
| 学部 | 教科横断と探究学習Ⅰ | 2前・後 | 1 | 1 | | | 一種（小中高） | ③⑤⑦ | 令和6年度 | 令和7年前期開講済 | 探究的な見方・考え方を働かせて横断的・総合的に学習することの意義やそこで育みたい能力について知り、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 |
| 学部 | 教育データの活用Ⅰ | 2前・後 | 1 | 1 | | | 一種（小中高） | ⑤⑦ | 令和6年度 | 令和7年前期開講済 | 学校教育において必要となるデータの活用、特に数値的なデータの収集、理解と分析の基礎について、学校で取り扱う学力調査を題材としながら解説するとともに、実際にデータを分析し、それをふまえた考察を実習する。データ収集にあたっての倫理的配慮や、妥当性・信頼性をもった測度を用いることの重要性、数量データの分布の広がりやそれをふまえた個人差の把握、指標間の関連性を捉える方法などを取り扱う。 |
| 学部 | ファシリテーターとしての教員Ⅰ | 2後 | 1 | 1 | | | 一種（小中高） | ① | 令和6年度 | 令和7年度後期開講済 | 現代においてファシリテーションが果たす意義や役割を理解し、教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶ。 |
| 学部 | 学習者中心の授業デザインⅠ | 2前・後 | 1 | 1 | | | 一種（小中高） | ①③ | 令和6年度 | 令和7年前期開講済 | 学習者中心の授業デザインの観点から、教育実践の歴史と原理を講ずるとともに、学習の目標・内容・方法から見た授業デザインの原理を検討し、具体的な授業のあり方を理解する。 |
| 学部 | 教職専門性と省察 | 2前・後 | 1 | 1 | | | 一種（小中高） | ②④⑦ | 令和6年度 | 令和7年前期開講済 | 教師（大人）として学び成長していくためには、どうしたらいいのかという問いのもと、教師の発達と学習についての理論、および教師の発達を促す学習を支える職場環境や研修制度について理解を深め、実際に教師としての学習を実践し始める。 |
| 学部 | 教科横断と探究学習Ⅱ | 3前・後 | 1 | | 1 | 2単位以上 修得すること | 小一 | ③⑤ | 令和6年度 | 令和8年4月開講予定 | 探究的な見方・考え方を働かせて横断的・総合的に学習することの意義やそこで育みたい能力について知り、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 |
| 学部 | 教育データの活用Ⅱ | 3前・後 | 1 | | 1 | | 小一 | ⑤⑦ | 令和6年度 | 令和8年4月開講予定 | 学校教育において、子どもの様々な側面を理解するために利用可能な複数の測度について、それが測定しうる内容、実践的な活用、倫理的な配慮について解説する。また、少数データからの推論や、データに基づく予測などについて、推測統計の基礎的な考え方を含めて解説する。 |
| 学部 | ファシリテーターとしての教員Ⅱ | 3前・後 | 1 | | 1 | | 小一 | ① | 令和6年度 | 令和8年4月開講予定 | 現代においてファシリテーションが果たす意義や役割を理解し、教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶ。 |
| 学部 | 学習者中心の授業デザインⅡ | 3前・後 | 1 | | 1 | | 小一 | ①③ | 令和6年度 | 令和8年4月開講予定 | 学習者中心の授業デザインをつくり出す目標・内容・方法の原理と実践を講ずるとともに、学習者中心の授業改善に向けての授業過程と教育評価を検討し、具体的な授業のあり方を理解する。 |

必要修得単位数 10～12単位